

竹内 芳美 中部大学理事長・学長に聞く



—学長兼務の理事長に就任されて1年余。所感をお聞かせください。

竹内芳美理事長・学長 学長の仕事が忙しいですね。会議や委員会の打ち合わせ、それに面談、面接と、30分単位で予定が入る日もあります。理事長は大学と併設校の2つの高校、1つの中学校の学園全体の運営責任者です。学園存続のためには少子化対策、学生減少への対応が課題ですね。

—少子化への危機感はどの大学も同じですね。

竹内氏 国内の大学入学者数は約60万人ですが、特に私学では半数以上が定員未充足です。2040年には、18歳人口の55%が進学すると仮定した場合、学生数は40万人ぐらいになると想定されます。これは2000人規模の大学が100校なくなる計算になります。

—貴学の定員は充足していますね。

竹内氏 現状は充足していますが、これからは大学が競合する時代になります。厳しい環境下で中堅の私立大学としては生き残りをかけて、ひたすら努力していくしかありません。

—理事長としてどのような対策を。

竹内氏 昨年から将来構想検討会議を4年ぶりに再開しました。経営改善タスクフォースを設置し、学園全体をどう安定したものに

東海地区屈指の総合大学、中部大学（春日井市）の理事長に竹内芳美氏が就任して1年余。就任4年目となる学長も兼務し、将来を見据えた大学改革、学園の安定経営を進めている。卒業生が2000人以上の大学の就職率が2年連続全国1位と「あてになる人間」の育成実績も着実に重ねている。「文理医教融合の学び」を打ち出した竹内理事長・学長に課題と展望を聞いた。

（聞き手は塚本隆編集長）

するかを検討、3つのワーキンググループ（WG）で議論を重ねています。

—タスクフォースとWGの内容とスケジュールは。

竹内氏 タスクフォースは学内の教員を中心に管理運営のメンバーで組織しています。WGは財務、教学、シナジーの3つの方面から議論しています。教学では学部や学科の再編など様々な融合を、シナジーでは高大連携やブランディングがテーマです。今年の年末を目途に方針がある程度固まったら、実行に移していきたいと考えています。

—物価高もあり、一部大学では授業料値上げの動きも出ています。

竹内氏 私学でも経済的に厳しい学生はいます。私たちの貯えは多くありませんが、値上げは我慢しようと考えています。設備の更新なども含めて基金を慎重に運用しながら経常収支は毎回黒字にしていこうと努めています。また、外部資金の獲得とともに、科研費（国の科学研究費補助金）にも力を入れていて、今年は愛知県内の私立大学で2番目に多く獲得しています。

—文理融合の総合大学として貴学には一定の評価があります。

竹内氏 現在8学部27学科ですが、教学面を一層魅力あるものにするため、医療技術系の生命健康科学部、教育系の現代教育学